

## 2012年度大学入試センター試験 解説〈地理B〉

### 第1問 世界の自然環境と自然災害

問1  正解は③

C海域は、太平洋プレートがフィリピン海プレートの下に潜り込むせまらプレート境界であり、マリアナ海溝（世界で最も深い地点＝－10920mのチャレンジャー海淵をもつ）が形成されている。

- ① 正しい。紅海は、広がるプレート境界であるアフリカ大地溝帯の一部である。
- ② 正しい。インドプレートがユーラシアプレートに衝突して、ヒマラヤ山脈などが形成された。
- ④ 正しい。カリフォルニア州のサンアンドレアス断層は、ずれるプレート境界に位置し、横ずれ型のトランスフォーム断層として有名である。

問2  正解は②

アイスランドの首都レイキャビクは、北極圏に近い高緯度にあるが、暖流の北大西洋海流や、その上を吹く偏西風の影響を受け、冬でも極寒にはならない。気温の年較差が小さく、年間を通して安定した降水がみられる西岸海洋性気候（Cfb）を示している。そのため、ハイサーグラフは比較的こぢんまりした形になる。

①はチュニス、④はケープタウンである。いずれも右下がりの形（高温乾燥⇔低温湿潤）で、夏季に乾燥する地中海性気候（Cs）を示している。①は7月、④は1月が高温（＝夏）になっているので、①が北半球、④が南半球とわかる。なお、地中海沿岸以外の地中海性気候（Cs）を示す地域を選ぶ問題はセンター頻出であり、2011年度第1問の間3でも地中海性気候（Cs）のハイサーグラフを選ぶ問題が出題された。③は札幌である。北海道は亜寒帯湿潤気候（Df）を示すため、気温の年較差が大きい、最寒月平均気温が－3℃未満、といった亜寒帯気候の特徴を持つグラフになる。

問3  正解は④

写真1は、N地点に位置するボリビア西部のウユニ塩原（塩湖）である。アンデス山脈中のペルーからボリビア、チリにかけて広がる高原地帯（アルティプラノ）の一部である。ウユニ塩原は、センター試験レベルでは覚える必要のない地名であり、問題文中のヒントによって消去法で判定することができる。「標高3000mを超える地点」「プレートの動きにともなって土地が隆起」から、K地点（安定陸塊のアラビア半島）はあてはまらない。また、「厳しい乾燥気候」から、L地点（熱帯のニューギニア島※）やM地

点（温帯のニュージーランド北島）もあてはまらない。N 地点付近は低緯度ではあるが、沖合を流れる寒流の影響で乾燥の強い地域である。

※注）ニューギニア島の中央部は、標高の影響で西岸海洋性気候（Cfb）に区分されている。

問4 4 正解は②

▲で示された4地点は、いずれも降水の多い温帯に属している。したがって、共通する植生は温帯林（主に落葉広葉樹林）、成帯土壌は褐色森林土である。表層は暗黒色の腐植層、下層は褐色を示す土壌で、耕地や牧地として利用される。

- ①は、熱帯に分布するラトソルの説明である。
- ③は、寒帯に分布するツンドラ土などの説明である。
- ④は、冷帯のタイガ地帯に分布するポドゾルの説明である。

問5 5 正解は③

a の下線部は誤り。火山灰が大量に放出されると、微粒子が成層圏を漂い、地表に届く太陽光が減少する。そのため、1991年のフィリピンのピナトゥボ火山の噴火によって、北半球の平均気温は0.5～0.6℃低下した。

b の下線部は正しい。エルニーニョ現象が発生すると、世界的な異常気象の原因になるとされる。エルニーニョ現象のもとでは、アメリカ合衆国西部は多雨、東南アジアは高温・少雨となることが多い。他に、中南アメリカの太平洋岸やインド洋など熱帯域は全体的に高温、サヘル地域（サハラ砂漠南縁）は多雨といった傾向もみられる。

**参考** エルニーニョ現象

通常、太平洋東部の低緯度地域（ペルー沖）では、赤道付近の強い日射によって暖められた海水が南東貿易風によって西に押しやられ、それを補う形で、深層からの冷たい湧昇流をともなって寒流のペルー海流が流れ込む。そのため平年のこの海域周辺は、低温→高気圧→少雨となる（南米太平洋側は乾燥し、海岸砂漠が形成される）。ところが、数年に一度、低緯度の太平洋東部で海水温が平年より高くなり、それが半年以上続くことがある。これをエルニーニョ現象といい、大気や海洋の相互作用により、世界の気候に影響を及ぼす。なお、逆にペルー沖の低温傾向が強化される年もあり、これをラニーニャ現象という。

問6  正解は③

P に該当するのはイ（高気圧による高温や干ばつの被害）である。日本列島上空にほとんど雲がみられないことから、西に張り出した小笠原高気圧に覆われて、晴天で暑い日が続いていることを示している。

Q に該当するのはア（寒波による大雪の被害）である。北日本を中心に東西に伸びる筋状の雲に覆われていることから、大陸の高気圧から季節風が吹き出す冬の典型的な「西高東低」の気圧配置を示している。北西季節風は、日本海上で水蒸気を大量に受け取って日本海側に大雪を降らせる。

R に該当するのはウ（前線による集中豪雨の被害）である。日本列島を東西に厚い雨雲が横たわっていることから、オホーツク高気圧と小笠原高気圧がぶつかり合う停滞前線（梅雨前線）の生ずる時期を示している。梅雨の末期には、ここに高温多湿の南風が吹き込んで、西日本から中部日本にかけて集中豪雨を引き起こす。

第2問 世界の農牧業

問1  正解は③

「大豆」を選ぶというよりも、各作物を緯度帯の順に並べるイメージで考えたい。

- ①はバナナ。最も緯度の低い熱帯・亜熱帯に栽培地域が限定されている。バナナが熱帯性の作物であることは、インド・フィリピン・エクアドルなどの主要生産国からもわかる。
- ②は綿花。中国・インド・アメリカ合衆国などが主産国であるが、アメリカ合衆国南部の綿花地帯やインドのデカン高原などの産地から、北緯 20 ～ 30 度付近に分布することがわかる。
- ③は大豆。主産国はアメリカ合衆国・ブラジル・アルゼンチンである。このうち、アメリカ合衆国では、混合農業が行われるトウモロコシ地帯で大豆の生産も多いことを思い出せば、②の綿花地帯との位置関係で、やや高緯度側に分布することがわかるだろう。
- ④はライ麦。寒冷で小麦の栽培が困難な地域で作られており、ロシア・ドイツ・ポーランドなど、ヨーロッパの高緯度地帯で黒パンの原料として栽培されている。

参考 大豆・バナナ・綿花・ライ麦の生産上位国

	大豆	バナナ	綿花	ライ麦
1位	アメリカ合衆国	インド	中国	ロシア
2位	ブラジル	フィリピン	インド	ドイツ
3位	アルゼンチン	中国	アメリカ合衆国	ポーランド
4位	中国	エクアドル	パキスタン	ベラルーシ
5位	インド	ブラジル	ウズベキスタン	ウクライナ

統計年次は、バナナ、綿花、大豆が 2009 年、ライ麦が 2008 年。

問2 8 正解は②

B 地域（アマゾン川流域）には、セルバと呼ばれる熱帯林が密生している。やせたラトソル土壌に覆われており、原始的焼畑農業地域となっている。河川水は豊富だが稲作は行われていない。近年では、入植者の森林伐採・火入れによる農地開発も進んでいるが、大部分は牧草地などに用いられている。

- ① A 地域（五大湖周辺）は、冷涼な気候と腐植層の乏しい氷食地形のもとで、都市と結びついた酪農地域となっている。
- ③ C 地域（サハラ砂漠周辺）では、厳しい乾燥のもとで、オアシス農業や遊牧がみられる。
- ④ D 地域（長江下流域）は、中国の主要な水稲耕作地域であるが、温暖な気候のもとで裏作に麦も栽培している。

問3 9 正解は④

アムダリア川・シルダリア川流域では、灌漑によってサトウキビではなく綿花の栽培が盛んになった。サトウキビは、インド・ブラジルなど主にサバナ気候（Aw）地域で栽培される。

- ① 正しい。センターピボットとは、地下水を汲み上げて円形に散水する灌漑装置である。
- ② 正しい。地下水路を北アフリカではフォガラ、アフガニスタンではカレーズという。
- ③ 正しい。東部の湿潤地域の河川から取水するため、導水トンネルや用水路が建設された（スノーウィー＝マウンテンズ計画）。

問4 10 正解は①

豚肉の生産上位国（2009 年）は、中国・アメリカ合衆国・ドイツである。特に中国やドイツでは伝統的な養豚文化・食文化と結びついて発達している。例えばドイツを含む北西ヨーロッパでは、かつてナラ林に放牧してドングリの実で育てた豚を、塩漬け肉やソーセージなどに加工して冬の保存食としていた。一方、豚肉食を宗教的な禁忌とするイスラム教圏には生産国がみられない。

- ②は牛肉輸入量である。アメリカ合衆国は世界最大の生産国でもあるが、消費量がそれ以上に大きいためブラジルなどから輸入している。なお、ブラジルではロシアへの輸出も増加している。他に日本やヨーロッパ諸国など、先進国の輸入が多い。
- ③は牛肉生産量である。アメリカ合衆国・ブラジル・中国の他、アルゼンチンやオーストラリアなどの企業的牧畜業が発達した国に注目すれば判定は容易である。
- ④は豚肉輸入量である。②と同様に先進国の輸入が中心で、統計地図の特徴も似ている。本問ではそこまで考えなくとも正解は得られるが、イスラム圏のエジプトに注目すれば②と④の判別もできる。

問5 11 正解は②

Xは北アメリカである。農業従事者1人当たり農地面積がぬきん出て大きく、大規模な経営規模を持ち、労働生産性の高いアメリカ合衆国の農業の特徴が表われている。

Yは南アジアである。労働集約的で土地生産性が低い。機械化などの農業の近代化が遅れ、多くの零細な貧農に支えられるアジア式農業の特徴を示す。

Zは西ヨーロッパである。農業の経営規模は小さいが、機械化を進め、多くの肥料や農薬を投入し、狭い耕地から高い収穫を得る土地生産性の高い近代的な農業が展開されている。

問6 12 正解は④

日本では、遺伝子組み換え作物を食品に使用する際に、その使用を表示する義務はあるが、輸入は禁止されていない。与えられた統計地図やグラフとは関係なく、誤文の判定ができるので、図表の読み取りに時間をかけた受験生には辛い設問であった。

- ① 正しい。アグリビジネスとは、農業関連産業のことである。
- ② 正しい。遺伝子組み換え作物は大豆・トウモロコシ・綿花などに広がっている。
- ③ 正しい。図5からEU加盟国のスペイン・ポーランド・ルーマニアなどでの栽培が読み取れるが、図6によると、それらの占める割合は小さいことがわかる。

第3問 都市と村落、生活文化

問1 13 正解は②

トルコの人口最大都市は、ヨーロッパとの結節点に位置するイスタンブールであり、内陸部の首都アンカラを大きく上回っている。

- ①はメキシコである。メキシコの首都メキシコシティは、イスタンブール同様に人口規模が2位以下の都市とかけ離れた首位都市（プライメート＝シティ）の例として有名であるが、過密による大気汚染などさまざまな都市問題が生じている。このような首位都市は、投資や開発が首都に限定して集中する発展途上国で形成されやすい。
- ③はオーストラリアである。ヨーロッパからの移民によって開拓された国家であり、沿岸部にシドニー・メルボルン・ブリスベンなどの港湾都市が分散している。一方、首都としてシドニーとメルボルンの中間にあたる高原上に建設されたキャンベラは、人工的な政治都市であり人口規模が小さい。
- ④はイタリアである。南北に細長い国土に主要都市が分散しているが、中央部の首都ローマが人口最大となっている。

問2 14 正解は⑤

アはモスクワである。市の中心には「城塞（要塞）」を意味するクレムリン宮殿があり、高い城壁で囲まれている。これは旧ロシア帝国の宮殿であり、現在は大統領府や官邸などが置かれている。

イはシカゴである。アメリカ合衆国の大都市は、都心に中心業務地区（C.B.D.）の高層建築群がみられ、郊外の住環境の整った地域には中・高所得層が一戸建てを構える。

ウはパリである。中心部に位置するセーヌ川の中州であるシテ島では、歴史的建造物の修復・保全が行われている。一方で、北西に位置するラ＝デファンスでは一掃（クリアランス）型の再開発によって高層ビルが立ち並ぶ副都心が建設された。パリの再開発については2011年第3問の間4でも出題されている。

問3 15 正解は③

1935年は畑地に隣接して林地が広がっていたが、当時の農家は落ち葉を肥料原料として、薪を燃料として利用していた。いずれの用途も現在ではみられず、都市化の進展とともに、このような雑木林は姿を消しつつある。

- ① 誤り。旧川越街道に沿って立ち並んだ農家は、路村の形態を示している。この地域は江戸時代に整備された野火止用水を利用して、新田集落として開発された地域である。
- ② 誤り。設問文にあるような無秩序な都市化はスプロール化と呼ばれる。インナーシティ問題とは、大都市の都心周辺で、住環境の悪化により老朽化した集合住宅などに貧困層が取り残される問題である。
- ④ 誤り。いわゆる「都心回帰現象」とは、バブル崩壊後の地価下落や再開発の進行によって、都心部での高層マンションなどの住宅供給が増加し、高所得層を中心にした都心部への人口流入が増えていることを指す。工場や倉庫などの広大な用地が必要な施設が、下落したとはいえ地価の高い都心部に回帰した事実はない。

問4 16 正解は④

ヨーロッパの宗教分布を大まかにみると、南欧および中・東欧にはカトリック、北西欧にはプロテスタント、東欧南部～旧ソ連には正教会、バルカン半島の一部にはイスラーム（イスラム教）が分布する。

A（スペイン）はキである。南ヨーロッパにはカトリックの信者が多い。

B（ドイツ南部～イタリア）はクである。ドイツ北部にはプロテスタントが多いが、南部はカトリック文化圏である。

C（ハンガリー～旧ユーゴスラビア）はカである。コソボの一部やアルバニアにはムスリム（イスラム教徒）が居住する。

問5 17 正解は①

スリランカは、南アジアの旧イギリス植民地が独立する際に、仏教徒の国（セイロン）として独立した。島の南部を中心に上座部仏教を信仰するシンハラ人が居住し、北部の少数派であるタミル人（ヒンドゥー教徒）との対立を続けてきた。

②はウズベキスタンである。中央アジア諸国は古代の東西交易路であるシルクロードのルートに当たる。トルコ系民族であるウズベク人の多くはイスラム教徒である。

③はフィリピンである。平野の少ない東南アジアの島嶼部では棚田での稲作がみられる。また、スペインに支配された影響からカトリックの割合が高い国である。

④はスウェーデンである。中世のハンザ同盟都市ヴィスビュは、バルト海に浮かぶゴトランド島の都市である。また、鉄鉱石の生産は現在も盛んで、キルナ鉄山で産出された鉄鉱石は、貨物鉄道で隣国ノルウェーの不凍港ナルビクに輸送されている。

問6 18 正解は④

インドの人口の約8割はヒンドゥー教徒であるが、宗教上の理由から牛肉食は禁忌となっている。ただし、牛は神聖な動物であり、牛乳・乳製品の利用はかまわないため、牛の飼育頭数は多い。また、人口の約1割（といっても日本の総人口より多い）を占めるムスリム（イスラム教徒）は豚肉食を禁忌とする。

①はカナダである。アメリカ合衆国やメキシコとともに NAFTA（北アメリカ自由貿易協定）を構成している。

②はイランである。1979年のイラン革命によって親米的な国王の政権が打倒されて以来、現在まで両国は対立を続けている。

③はイタリアである。ピザは、練った小麦粉を発酵させ、薄くのばしてトマトソースを塗り、チーズや野菜・肉類などを載せて窯で焼いたイタリア発祥の料理である。

第4問 北アメリカ地誌

問1 19 正解は③

先住民文化についての知識は不要で、おもに自然環境の特徴から判断すればよい。

C 地域はロッキー山脈の東麓にあたり、グレートプレーンズからプレーリーにかけて広大な草原地帯が形成されている。現在、グレートプレーンズでは放牧・灌漑農業、プレーリーでは小麦などの企業的穀物栽培が行われている。

①は B 地域に該当する。北東太平洋での漁業やロッキー山脈周辺での林業を想起すればよい。

- ②は D 地域に該当する。アリゾナ州からメキシコにかけての乾燥した高原地帯である。この地域で伝統的に利用される日干しレンガはアドベと呼ばれる。トウモロコシやカボチャはラテンアメリカ原産である。
- ④は A 地域に該当する。狩猟民族であるイヌイトやアラスカエスキモーの伝統的生活を表している。

問 2 20 正解は⑥

スペイン語はウにあたる。アメリカ合衆国南隣のメキシコでは、旧宗主国の影響からおもにスペイン語が話されている。近年ではメキシコからアメリカ合衆国への移民が増大しており、「スペイン語を話す人」という意味の「ヒスパニック」が彼らの呼称となっている。

---

**参考** アメリカ合衆国の南西部は、1848年にメキシコから割譲された（一部は1853年に購入した）領土である。

---

フランス語はイにあたる。現在のアメリカ合衆国東岸から入植を始めたイギリスに対し、フランスはセントローレンス川流域から入植して、ミシシッピ川に沿って南下した。そのため、カナダ東部のケベック州は今もフランス語圏となっており、英語話者の多いカナダからの分離独立を求める動きもみられる。また、アメリカ合衆国のミシシッピ川流域にも、ルイジアナなどのフランス語に因んだ地名がみられる。

ロシア語はアにあたる。アラスカ州は、1867年にアメリカ合衆国がロシアから購入した領土である。

問 3 21 正解は②

まず、大学院修士号以上の取得者の割合が低い③、④が、アフリカ系またはヒスパニックであるが、英語を話せない人が多く、南西部の工場や農園における低賃金労働力となっているヒスパニックが④と判定する。よって、アフリカ系は③である。残る①、②のうち、中国やインドなどの優秀な学生が数多く留学していることから、①がアジア系である。アジア系の場合、低賃金労働に従事する移民も多いため、製造業従事者の割合が高めであることも参考になる。以上から、ヨーロッパ系は②である。特に①と②の判定で間違いやすい難問である。

問 4 22 正解は①

まず、③はトウモロコシである。メキシコではトウモロコシ粉を原料にした薄焼きのトルティーヤを主食としている。アフリカや中南米の発展途上地域には、トウモロコシを主食とする国が多い。アメリカ合衆国や日本では、おもに家畜の飼料として消費される。

④は米である。米を主食とする日本の数値が高いものを選べばよい。キューバの高い数値が意外だが、トウモロコシやキャッサバ（マニオク）を主食としていた先住民が絶滅したあと、植民地時代に移民によって持ち込まれた米が主食になっている。残る①と②は、いずれもアメリカ合衆国の数値が極端に高く、他の3国には大きな差がないことで共通するため、食料供給栄養量の絶対値の大小から判断すればよい。大豆油は調理用の補助的な食品なので、多くの国で主食となっている小麦に比べ食料供給栄養量は小さくなる。よって①が小麦、②が大豆油である。

問5 23 正解は③

農業の総生産額が最低位であるのは、1)北東部のロードアイランド・ヴァーモント・ニューハンプシャーなどの寒冷で狭小な州、2)西部のワイオミングや東部のウェストヴァージニアなどの山岳地帯の州、3)アラスカ州などである。南部の諸州は綿花地帯にあたり、上位とはいえないが最低位ではない。

- ① 正しい。農産物取引市場があるのは、イリノイ州のシカゴである。
- ② 正しい。ロッキー山脈中のワイオミング州などがこれに該当する。
- ④ 正しい。世界都市とはニューヨーク州のニューヨークである。

問6 24 正解は②

まず、Nは中国である。1987年には上位8か国に入っていなかったNが、2009年に1位となっていることから、この間に工業生産が急成長し「世界の工場」となった中国とわかる。次にKは日本である。1987年の1位から順位が下がり、Nとは逆にその地位が低下していることから、円高等によって製造業が海外に移転し、産業の空洞化が進んでいる日本とわかる。Lはメキシコである。NAFTA（北アメリカ自由貿易協定）の結成によってアメリカ合衆国との関係が強まり、低賃金労働力を武器に輸出産業を急成長させていることから判断する。残るMはイギリスである。

第5問 現代世界の諸課題

問1 25 正解は②

一人っ子政策は旧ソ連や東ヨーロッパではなく、中国の政策である。旧ソ連や東ヨーロッパでは、体制変換にともなう社会の混乱や経済状態の悪化が、平均寿命の低下につながった。

- ① 正しい。北アメリカはおもに先進国の地域であるが、海外からの若い移民が多いため出生率が比較的高めである。

- ③ 正しい。サハラ以南アフリカでは、近年では HIV 感染によるエイズ患者の増加が平均寿命を低下させている。
- ④ 正しい。西ヨーロッパの中でも、ドイツ・オーストリア・イタリアなどで特に少子高齢化が進んでいる。

問2 26 正解は④

「緑の革命」は、東南アジアやアフリカなどのプランテーション農業（企業的農業の一種）地域にも普及した。以下のように①～③は正文であるから消去法的に④が誤文となるが、「緑の革命」が普及した地域には、自給的農業を営む地域も多く含まれているため、これを誤文と判定するのは大変難しい。

- ① 正しい。フィリピンの国際稲研究所（IRRI）で開発された IR-8（「奇跡の米」といわれた）やメキシコで開発された小麦の新品種などが「緑の革命」を牽引した。
- ② 正しい。土地生産性とは単位面積あたりの収量の大きさである。「緑の革命」で導入された新品種は高収量であることが特徴であり、同じ面積からより多くの収穫を得られるようになった。
- ③ 正しい。化学肥料の製造には大量の化石燃料を必要とする。例えば窒素肥料の製造において、窒素は空気中に無尽蔵にあるが、これを水素と反応させてアンモニアの形で固定しなければならない。この水素の製造にはエネルギーが必要で、現在はおもに天然ガスを利用している。

問3 27 正解は③

まず、アフリカに該当するのはイである。アフリカでは人口の急増にともなって耕作面積を急増させているが、資金や技術者などの不足から農業の技術革新は進んでおらず、他の2地域に比べて穀物の単位面積当たりの収量（すなわち土地生産性）の向上が遅れている。東南アジアに該当するのはアである。東南アジアは、南アジアと並んで「緑の革命」の恩恵を受けて穀物生産量を増やした地域である。残る南アメリカに該当するのはウである。統計の読み取りに時間がかかる上に受験生が迷いやすく、やや難しい設問である。

問 4 28 正解は③

湾岸戦争（1991 年）において、イラク側の作戦や多国籍軍の攻撃によってペルシャ湾に重油が流出して生態系に深刻な影響を与えた。

- ① 誤り。A（ナイジェリアのニジェール川河口付近）は油田地帯であって、石炭は産出しない。1967 年代の後半、この地域に居住するイボ人が、他の民族からの分離独立を求めて戦争となった（ビアフラ戦争）。
- ② 誤り。B（ロシア～ヨーロッパ間）において、天然ガスは鉄道ではなくパイプラインで輸送されている。
- ④ 誤り。D（南シナ海）の南沙諸島は、中国・フィリピンの他、ベトナム・マレーシア・ブルネイが領有権を主張しているが、インドネシアは関与していない。

④の判定で悩んだ受験生が多かったのではないだろうか。しかし、南沙諸島問題の係争国については 2005 年第 3 問の問 6 にも出題例があるので、過去問演習はしっかり行っておきたい。

問 5 29 正解は②

スペインでは風力発電に力を入れており、2011 年 3 月には最大の電力源となった。他にドイツやデンマークなど、偏西風帯にあたるヨーロッパ諸国では風力発電が盛んである。

- ①はフィンランドに該当する。豊富な森林資源を活かし、木質バイオマス（紙・パルプ産業の廃棄物を燃料とする）を利用している。
- ③はカナダに該当する。カナダは水力ダムに適した河川が多く、発電に占める水力発電の割合が高い国である。
- ④はニュージーランドに該当する。新期造山帯に位置し、火山活動が活発である。北島には有名なワイラケイ地熱発電所があり、地熱の利用が盛んである。

第 6 問 地域調査（静岡県大井川流域）

問 1 30 正解は③

島田は B である。3 地点のうち最下流部にあり、流路の広い河川周辺の堆積地形である氾濫原は平坦である。

地名は A である。河川中流にあり、周辺には山地も見えるが、河川幅がやや広い。

奥泉は C である。河川の最上流にあるため、山地が強い侵食作用によって V 字の断面をもつ峡谷に削られ、谷底に流路の狭い河川がみられる。

常識的に判断できる易問である。

問2 31 正解は①

沢間駅の対岸には、神社の他に工場の地図記号がみえるが、発電所はない。

- ② 正しい。おもに南北方向に数本の送電線が通っている。
- ③ 正しい。千頭駅から南に進むと「田代」の北で鉄道橋が河川を越え、「田代」の西ではトンネルをくぐり、すぐに再び鉄道橋が河川をまたいでいる。
- ④ 正しい。交番や郵便局の他に、官公署の記号もみられる。

問3 32 正解は①

倉平に該当する文はアである。倉平は山間部にあり、文中の「焼畑」が可能な山林が周囲に豊富である。したがって、倉平に該当する写真は P である。山間部の斜面の様子を表している。

牧ノ原は明治時代に失業した士族への授産事業として開拓が行われた台地である。台地上の平坦地が茶畑として利用されている。牧ノ原開拓の歴史を知らなければ、「焼畑」の語から推測する他ない。写真の判定は比較的容易であろう。

問4 33 正解は④

1997 年の架橋位置は、明らかに北側に移動している。

- ① 正しい。1895 年の図では、河川敷に何本かの点線で描かれた道がみられる。江戸時代には幕府の軍事政策のため（といわれている）橋が架けられなかった大井川では、人足が旅行者を担いで徒歩で川を涉っていた（「川越し」といった）。
- ② 正しい。水田の地図記号が現在とは異なる点に注意したい。
- ③ 正しい。島田と金谷は「対向集落」「双子都市」とよばれる宿場町である。

---

**参考** アメリカ合衆国のミネアポリスとセントポールもミシシッピ川をはさんだ対向集落・双子都市の例として有名である。

---

問5 34 正解は③

川根本町はキである。最上流の山間部にあるため、他の2地点と違って林業が行われている。工業の発達的前提となる産業基盤（用地、交通機関など）に恵まれているとは考えられず、第二次産業の発達は遅れている。

島田市は力である。かつての宿場町であり、他の2地点に比べて商業やサービス業が発達しており、第三次産業が盛んである。

吉田町はクである。海に面しており、漁港があると考えられるため、他の2地点にはない漁業が行われていると考えられる。

この地域の詳細を知らなくても、「林業」「漁業」に気づけば判定は難しくはない。

問 6 35 正解は③

サは堆積地形である。扇状地とは、上流から河川に運搬された土砂が、谷の出口に堆積して形成される。

シは北西である。図 4 をみれば、この扇状地は西に扇頂をもっており、西から東に広がっていることがわかる。R 地点では、斜面は北西から南東に下っており、洪水も当然北西から南東に向かって流れる。